



(岡山北部)

岡山・南溝手遺跡

みなみぞて

- 1 所在地 岡山県総社市南溝手
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14)一〇月
- 3 発掘機関 岡山県古代吉備文化財センター
- 4 調査担当者 宇垣匡雅・渡邊恵里子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

南溝手遺跡は、総社市東部の水田地帯に位置し、中世の国衙領である備中国賀陽郡服部郷に含まれる。一般国道一八〇号総社・一宮

バイパス建設に伴って二〇〇二年から二〇〇七年にかけて発掘調査を行ない、弥生時代後期から近世までの遺構・遺物を確認した。

木簡は、二〇〇二年度のトレンチ調査において一点出土し、後の本調査の成果によって、溝三二から出土

したことが確認された。溝三二は、一七世紀～一八世紀の屋敷地を画する溝であり、埋土の堆積状況などから、新旧の二時期に分かれる可能性がある。木簡は、溝三二の新段階に属するものと思われ、およそ一八世紀に比定できる。また、本遺跡からは「八〇(辺カ)」と書いた、八世紀末から九世紀初頭の墨書土器も出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「あとわ〇」

・「式斗

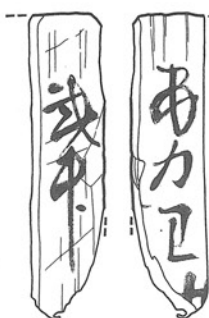
(80)×(39)×5 081

上端及び左辺はかろうじて原形をとどめるが、右辺及び下端は欠損している。表面四文字目は、草冠の文字か。「式斗」という語句から、品物か産地を記した荷札かと思われる。

なお、木簡の釈読については狩野久氏にご教示いただいた。

9 関係文献

岡山県教育委員会『南溝手遺跡 窪木遺跡』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告二四、二〇〇八年)



(松尾佳子)